



始

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

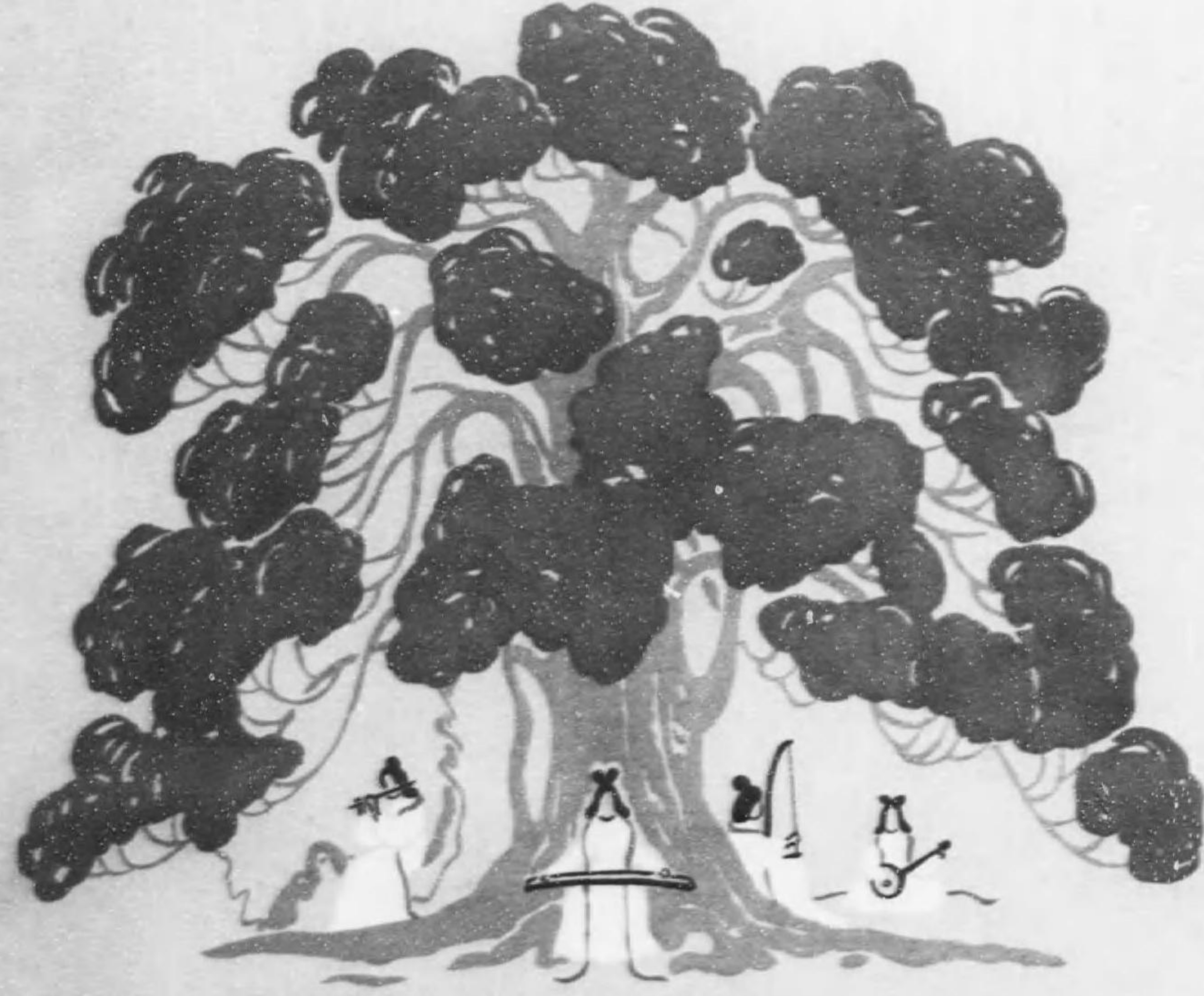


JAPANESE MUSIC.

撰定長唄集

北村季晴編

卷之壹



大坂關成館藏版

301
362

7115
865



撰定長唄集

第一輯

明比鐘 (叢雲) 黒髪
菊壽の草摺 ことぶき 松の緑
吉原雀の一部 初時雨

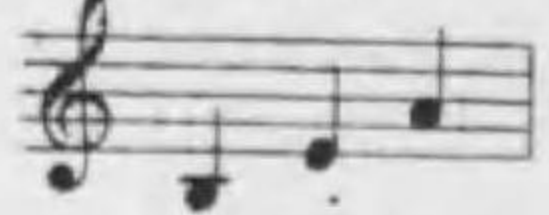


大阪関成館蔵版

大正
11.20.
丙寅

朝の鐘(よひはまち)

(三下り)

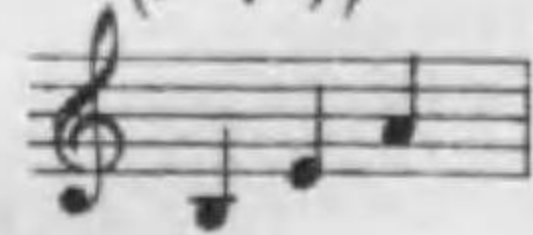


こゝに掲げた3楽節は初學者の爲めそのあらすぢをのみ記せり。
 即ち進みては  の如く發聲
 されて歌はるゝものナリ第四圖及び第五圖参照。

よひはまちそしてらみてあ
 かつきのわかれのかわとみふいと
 のふくまれぐちかあれあくわい
 あきかせともあきすみにてもか
 ねはうまのあきくきか

黒かみ

(三下り)



京風の地味中めものと東京にて長明のノリヤスとして行はるゝものとは、
 別調異せり。こゝに掲ぐるは東都のものなり。

くろかみのむすばれたるか
 もいにはとけてね
 たいのまくらとてひとりぬるよのあだ
 まくらそではかたしき
 つまやといふてぐちか

か な - ご - の - - こ こ ろ - と - し - ら - - て - - し ん -

と ふ け た - る - - - か の の - こ - - ま

- - - ゆ う - の - - - め - - の - - け き さ

め - て ゆ か - - し ふ つ か - し - - ゃ る - せ - な - や つ

し - る と - し ら - - つ - も - る - - し - ら - - ゃ - き

菊 壽 の 草 摺 (いきほひ)

(三下り)

い き - を い - わ ね

う に - ふ も た か き - そ が の - こ ろ う と き - む ね が -

き か お も - だ か の よ ろ い - て ふ - - - も - す

そ に - す が る つ る の ま - る す ほう の - - - そ で - を

か

5
は - り - - - と - め - る - -
は - かに - - - こ - ぼし
あ - ぎ - ひ - ち - ぶ - ら -
ぬ - - - - - き - - - - が - - - - た - せ
ん - の - - - - - せ - - - - ら - - - - く - - - - か - - - - ぶ - - - - に - -

ひか - れて - と - まる - こ - こ - ろ - なら - や - ら - じ - と
ひ - け - ば - と - き - む - - - - な - は
ひ - ごと - ろ - の - は - ん
も - ち - ち - の - あ - だ - き - ま - た - げ - ふ - す - な - と - つ - き - と - ば - し
く - る - の - け - れ - と - は - ち - ごと - ろ - せ - は - せ

This page contains five systems of piano accompaniment. Each system consists of a treble clef staff and a bass clef staff. The music is written in a single melodic line across both staves. The notation includes various rhythmic values, accidentals, and fingering numbers (1-3). There are several measures with rests in the upper staff, suggesting a vocal line. The piece concludes with a double bar line and repeat dots.

This page contains five systems of piano accompaniment, similar in format to page 7. The notation includes Japanese lyrics written below the notes. The lyrics are:

 め - の - - ふ - る - の - に - い - の - ふ - と - は - そ - の - ち -

 え - た - た - い - け -

 と - め - て - - - い - の -

 あ - - - - - の - - - - -

 - - - - - し - - - - - は - - - - - う - そ - か - い - - - -

 The piano part features complex rhythmic patterns and fingering, including many triplets and sixteenth notes. The piece ends with a double bar line and repeat dots.

うそかもゆれかもまことに

にーいろまさはかかめ

そしてだましてそれそれその

かほでこわいこといふてはらたてーきんす

そちらむいてー

いきんしてもかはみやーちらぬす

えきーたのみのーかよふか

みかよ

は き - ばう ばう - あきひ ふが
 ち - - - か - - - ら - - - は すはうの - - - せいで
 へて たが - い に - おと らぬ あり - き まは
 きせん じうげ - をし - か べて
 かん ぜん め - の - こ そ - を か - り - け - - - け

吉原雀 (其一部)

(ニ上リ)
 その
 てでふかみえ - はんま - ちどり かよひふれ - たるどては -
 ちか - くら は つちか かのせら - け - て - かきのかめめめ
 (イヤ - ハ) にちみだち きんちだち
 (ヤシ)
 きけん - ぞめ きあむ

くどりのむれつつかきつつき
 にかしきき たたくくく
 なりくちまめりのく
 ちやくぞめきでめじろかし
 みせまががきのてんてつとんきつきかせかせえ

初時雨

(水調子)

第一編以下に用いたる歌謡は、和歌や民謡の調の流すのあらすぢのみを記したりしが、當曲に於ては、そのあらすぢと之に音節と照したるものとを記すべし。中國の歌謡は、三絃の旋律と、そのアコードの離れざるもの（常は之を基調と爲す）即ち調の基調にして、上四の歌謡は、之が拍子も裝飾的につくられたるもの（常は之を基調と爲す）なり。即ち上四の調は、下四のものと同じにして、たゞ拍子が凡て八分音符の四分が、僅く異なるを見るべし。此は民衆歌謡の主要なる特徴の一なり。和歌等は先づ中國の基調によりて、調の素材を學び、然る後上四の基調を學ぶべきなり。

なれまつのは --- の --- か --- ち --- そ --- め --- て ---
 なれまつのは --- の --- か --- ち --- そ --- め --- て ---
 う --- く --- け --- け --- し
 う --- く --- け --- け --- し
 ろ --- き --- ま --- つ --- ち --- や --- ま --- し --- く ---
 ろ --- き --- ま --- つ --- ち --- や --- ま --- し --- く ---

れ しぐれに なく

うう しど のこまも

(ケシ)
(胸の聲に擬す)

こが るや いが たみち

えもん ざか こえて

かお の

こま

それわう

え の か あ ざ く ざ か

い に は だ せ ぬ く め さ じ り せ

い に は だ せ ぬ く め さ じ り せ

か し

か し

の ふ ち の か も い お

の ふ ち の か も い お

の ひ ら の は つ は な

の ひ ら の は つ は な

し た ひ も こ け て せ

し た ひ も こ け て せ

か ら じ ゃ ぶ ち の む

か ら じ ゃ ぶ ち の む

ぐ ち の き り を いた

ぐ ち の き り を いた

づ ら な た け か り ん き に せ は ら

づ ら な た け か り ん き に せ は ら

(合の手)

きくーのーいんーにーにーきーおーいーあーらーしー
 きくーのーいんーにーにーきーおーいーあーらーしー

大空ゆき

(木調子)

しーのーは3ーとーのーまーみせ
 らしーくーとーのーまーみせ
 ててーかえー3ーかりーがーおーの

かばろ - かきめ - る - や

ま - の は - こころに - かわりあ なげれ - -

と - る - こ - め - し - け - し

あ - む - け - し - の - こ - と - と - あ - - ぬ

な - ら - ば - は - 3 - - - と - - - 3 - - - め

や - - - とく - ら - の - か - り - - -

し - め - と - む - ら - 3 - て - - な - が - ら - せ - て - - 3 - 2 - 2

- は - の - た - の - し - め - と - む - - - き - - - の - - - ぬ

と - の - - - な - が - - - と - - - あ - た - - - ぬ - - - ぬ

あ - - - に - - - あ - ぬ - - - の - - - - - - - - -

よわきま - きに かあれどしわが - み - う

と - つ - は - し - の - ん - じ - て

(木調子)

松のみどり

中説書譜集法は歌謡の資料にして上院書譜集法は之を藝術的に
従くせたるもの也 (第四編加時間と参照すべし)

こ - と - し - り -

ち - た - り - こ - ん - は - こ - と - に -

First system of musical notation on page 27, consisting of a vocal line and a piano accompaniment.

Second system of musical notation on page 27, including Japanese lyrics: か - - - か - - - - - ろ - - - - -

Third system of musical notation on page 27, including Japanese lyrics: か - - - め - - - に - - - ま - - - の - - - み - - - ど - - - り - - - か

Fourth system of musical notation on page 27, including Japanese lyrics: か - - - め - - - の - - - な - - - あ - - - ろ - - - ふた - - - び - - - の - - - い - - -

First system of musical notation on page 28, including Japanese lyrics: ろ - - - に - - - た - - - い - - - ろ - - - の - - - か - - - え - - - の

Second system of musical notation on page 28, including Japanese lyrics: ふ - - - き - - - - - か - - - - - ろ - - - - -

Third system of musical notation on page 28, including Japanese lyrics: ま - - - つ - - - の

Fourth system of musical notation on page 28, including Japanese lyrics: く - - - ら - - - い - - - の - - - え - - - と - - - は - - - ち - - - び - - -

は - て - る - め - た - 3 - 17
 くん - じ - は - て - る - め - た - 3 - 17

だ - し - う - ま - よ - に - た - 3
 だ - し - う - ま - よ - に - た - 3

つ - の - あ - り - も - う - と - つ - か - こ -
 つ - の - あ - り - も - う - と - つ - か - こ -

い - の - ま - が - き - に - も - 3 - 3 -
 い - の - ま - が - き - に - も - 3 - 3 -

と - は - び -
 と - は - び -

き - の - め - つ - せ - か - い -
 き - の - め - つ - せ - か - い -

よ - の - ま - こ - と - と - う
 よ - の - ま - こ - と - と - う

ら - も - て - く - ら - べ - こ - し - な - 3 - つ - つ - い -
 ら - も - て - く - ら - べ - こ - し - な - 3 - つ - つ - い -

--ぶ-- --つ-- --ふ--り-- --わ--け-- -- -- --が--み-- --も-- --い-- --つ-- --し
 ぶ -- つ -- ふ -- り -- -- け -- -- が -- み -- も -- い -- つ -- し
 --か-- --に-- -- --か-- -- --い-- -- --と-- -- --な-- -- --る-- -- --ま-- -- --い-- -- --す
 か -- に -- -- が -- い -- -- と -- -- な -- る -- ま -- い -- す
 --ま-- -- --ひ-- -- --ろ-- -- --く-- -- --ひ-- -- --ら-- -- --き-- -- --そ-- -- --め--
 ま -- ひ -- ろ -- く -- ひ -- ら -- き -- そ -- め --
 --た-- -- --る-- -- --な-- -- --こ-- -- --そ-- -- --し-- -- --く-- -- --き-- -- --め--
 た -- る -- な -- こ -- そ -- し -- く -- き -- め --

ながくと、仇な色音に合の手や、世は様々に變れども我身一つはもとの身にして。

松の緑

今年より千度迎ふる春毎に、なほもふかめに松の緑かかむろの名ある、ふた葉の色に太夫の風の吹き通ふ、松のくらのそと八文字、派手を見せたる、蹴出襖、よう似た松の根あがりも、一つ圍ひの籬に漏るゝ、さとは根曳の別世界、世々のまこと、裏表、くらべごし筒非筒、ふりわけ髪もいつしかに老となるまで末廣く、開きそめたる名こそ祝さめ。

吉原雀 (其の一部)

其手でふかへはんまちどり、通ひ馴たる土手八丁、口八丁に乗せられて、沖の鷗の、二てう立ち、三てう立ち、素見ぞめきは椋鳥の、群れつゝきつゝ、格子先、たゞく水雞のくちまめ鳥に、孔雀ぞめきて目白おし、みせすがゞきのてんてつとん、さつさせ〜へ。

初時雨

檜松の葉の落ち初めて、夕暮白き待乳山、時雨しぐれに鳴鳴の、聲も氷るや干かた道、衣紋坂こへて鐘の音。
 夫は上野か浅草か、ねぐら急いで通ひくる、あほう鳥が笑ふとまゝよ、エ、おかしやんせ、可愛いくとはひきをしめて、たがひにはだは暖鳥つがひにちかふ鳥さへも、おしの襖に思ひねの、室の初花下ひもとけてつい開き初め、合それからむすぶ莊氏が蝶のゆめ見草、露のなさはいたずらなしほるも室椿誰が俗氣に吹き拂ふ、にくやれんじにさそふ夜嵐。



<p>目賀田萬世吉著 唱歌幼稚園 全一冊 正價金三十五圓 郵費八圓</p>	<p>關山民平編 教育幼稚唱歌集 全一冊 正價金六十五圓 郵費八圓</p>
<p>關山民平編 舞踏曲集 全一冊 正價金五十圓 郵費八圓</p>	<p>吉田恒三著 音樂辭書 全一冊 正價金五十圓 郵費八圓</p>
<p>北村季晴編 撰定箏曲集 全二冊 正價金八十圓 郵費八圓</p>	<p>菊田歌雄 關田慈琴編 新撰箏曲全集 全二冊 正價金八十圓 郵費八圓</p>

<p>大正元年九月廿五日 —印刷— 大正元年九月廿五日 —發行— 撰定長明堂第一集 定價七十五圓</p>	<p>編者 北村季晴 發行所 大阪市東區北久寶寺町四丁目六番地 三木佐助</p>	<p>印刷者 堀越幸 發行所 大阪市東區心齋橋北久寶寺町角 大阪開成館</p>
--------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------	-------------------------------------------------

明の鐘 (宵は待ち)

宵は待ち、そして怨みて曉の別れの鳥とみな人の、
悪まれ口を、あれ、泣くわいな、聞かせともな
き耳にても、鐘は上野か浅草か。

叢雲 (明の鐘の換へ唄)

むら雲も、人の心も月ゆゑに澄ゆく夜半はくさむ
らの、松虫さゑも、それ、音をたて、露のうら
葉に泣くものを、學びの友よ訪へかしな。

黒髪

黒髪の、結ばれたる思ひには、解けて寝た夜の
枕とて、獨りぬる夜の仇枕、袖はかたしくつまじ
やと言ふて、愚痴な女子の心も知らず、しんと更
けたる鐘の聲、ゆふべの夢の今朝さめて、ゆかし
なつかし遣る潮なや、積ると知らてつものしらゆ
き。

菊壽の草摺 (いきほひ)

勢ひ和朝に名も高き、曾我の五郎時宗が、さか澤
濁の鎧てふ、もすそにすがる鶴の丸、素袍の袖はか
きなて、止めるは鬼か小ばやしの、あさひな、

らぬ優姿、女によれる黒髪に、ひかれて留まる心
なら、やらじとひけば時宗は、日頃の本望父の仇、
さままけなすなとつきとばし、廓の洒落とは違ふ
ぞよ、放せ、とめた、留めてよいのは朝の雪、雨
のふるのいなふとは、そりややぼじやぞへまた
しやんせ、起證誓紙はうそかいな嘘にも洒落にも
真にも、よそに色増す花ながめ、そしてたまして、
それくくその顔て、こわいこと言ふて、腹立
てさんす、そちら向いて居さんしても顔見にや
ならぬ、末を頼みのかよふ神。かよはき少將朝比
奈が、力は素袍の袖添へて、互におとらぬ有様は、
貴賤上下おしなべて、かんせぬものこそなかりけ
る。

ことぶき

月やあらぬ、春や昔の花ならぬ、咲ける櫻も雲と
のみ、見捨て歸る雁の、臍かすめる山の端や、心
に變りはなけれども、戀しゆかしは昔の事よ、と
は言ひながら春毎に梅や櫻の盛りより、もくと云
ふまでながらへて、月雪花の樂みは、三筋の糸の

MUSICAL INSTRUMENTS-DEALER

山葉製

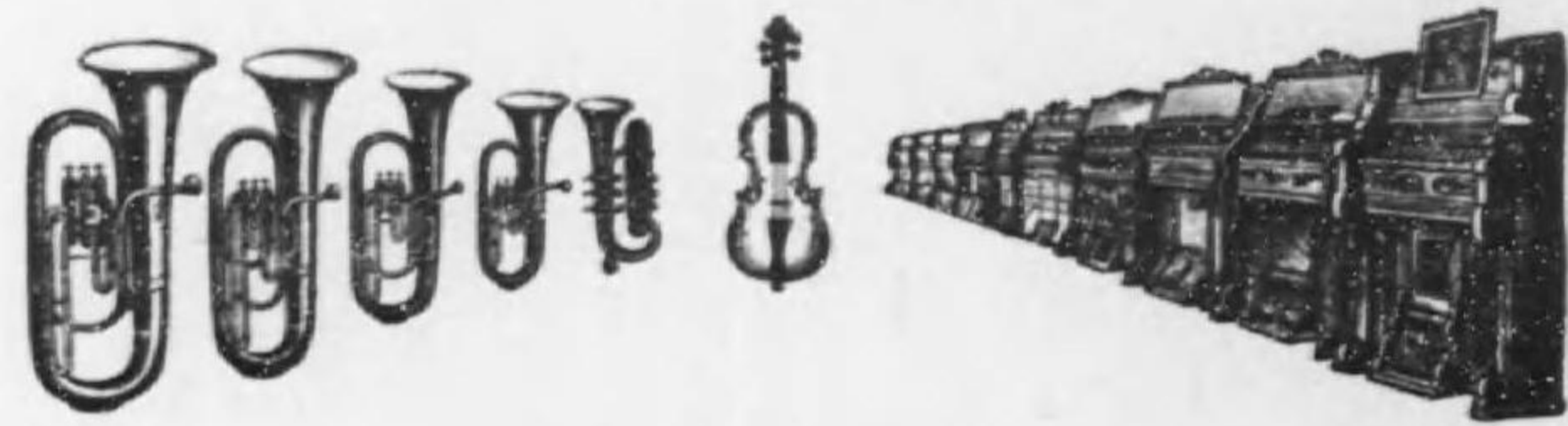
風琴洋琴

鈴木製

ヴァイオリン

月賦・販賣・賃貸ノ便法ヲ提供ス

關西一手販賣元



西洋樂器各種

大阪市心齋橋通北久寶寺町角

三木樂器店

(卸用電話東八〇七・小賣部電話東四三二五)

(振替貯金口座大阪七九番)



支店

(神戸市元町三丁目・電話二四二一)



S. MIKI

Kita Kyuhojimachi 4

OSAKA.

特115
865



東岳

~~301~~
~~363~~

終